

## 車山・蓼科山の登山

【山 域】 美ヶ原・霧ヶ峰

【場 所】 車山・蓼科山

【行動日】 12月8日(土)～9日(日)

【参加者】 CL 室 昌美 SL 齋藤健志 鈴木憲二 鈴木愛子 村尾憲治 大木裕見子 山内英晴(記録)

【行動】 一日目(8日): 車山の登山 二日目(9日): 蓼科山の登山

12月8日(土)

1日目(車山 1925mハイキング)

千葉5:50発(車2台) → 中央自動車道 → 双葉SAで車2台 合流8:45 → 諏訪ICで降り → 一般道のビーナスライン → 車山肩(クロボックルフェütte) 駐車場 発10:20 → 10:55 車山山頂1925m(レーダー観測所)11:15 → 11:50 蝶々深山12:00 → 12:23 物見岩 → 奥霧の小屋13:00 → ゼブラ山13:30 → 北の耳 → 15:10 車山肩駐車場(全約5時間)

2日目(蓼科山 2431mピストン)

蓼科山登山口(スズラン峠) 発9:40 → 11:10 中間点 → 13:00 蓼科山山頂(2430m) 発13:15 → 15:40 登山口駐車場(全約6時間)

12月9日(日) 1日目(車山 1925mハイキング)

【内容】 一週間(12月2日)前から12月5日までの天気予報では長野、新潟は荒天で風も強く雪も降る予報でしたが2日間とも晴れて登山をすることができました。ただ1日目は風が強く体感温度からするとハイキングですが非常に寒く冬山の感じでした。2日目は風がほとんどなかったがやはり寒さ厳しく冬山の様子で時に雪も少しちらつきました。



12月8日(土) 車山一周ハイキング 晴れ風が強く寒い

車山(くるまやま)は、長野県茅野市と諏訪市の境目に位置する山。霧ヶ峰の最高峰で、標高は1925mで車山一帯は車山高原(くるまやまこうげん)と呼ばれており、ハイキングにはもってこい高原で冬以外は、さまざまな小動物や草花などを見る事ができるレジャースポットになっていて、公園・博物館・レストラン・テニスコートやグラウンドなどの施設も備え付けられているようです。

冬季には、車山高原スキー場としてスキーが楽しめる場所ですが、我々が行った日は12月上旬で当然ですが小動物や草花は見られず、スキー場も全く雪がなくリフトも動いてなくこれで1週間後のスキー場開きができるのかと心配したほどです。我々スキーに行ったのではなく登山なので心配することはないのですが。



10:20 車山肩の駐車場から案内板のよこを通り抜け、ゆるい傾斜の登山道に入りもう

すぐ下は霜柱（5～10 cmはある霜柱）で、これを踏みしめながら強風の迎え風の寒風に身をさらし道を上り詰めると山頂のシンボルである、気象庁の気象観測レーダーの巨大なドームの建物と対をなすかのような小さな祠、車山神社がある標高 1925m の山頂に到着。

周りは 360° の大パノラマで遠くに北、中央、南アルプスをはじめ、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、八ヶ岳連山が眼前に見え、さらに遠くに富士山がくっきりと見え素晴らしい景色をまずは堪能。

寒いので凍える手で行動食を食べ、写真を撮した後、下りながらさらに登りながらと繰り返し両側に生い茂る笹と霜



柱の登山道を進み、次々と次の峰（頂）に向かう。





全く樹林帯がなく、冬なので背の高い植物もなく全くの全山丸裸の高原の感じだけにどの峰の頂に着いても大パノラマの景色を堪能することができました。

約5時間の行程で一周のコースを回りましたが、私にとりまして車山は初めてでしたので峰（頂）が最初の車山一つ思っていたのが、蝶々深山 12:00→物

見岩 12:23→奥霧の小屋 13:00→ゼブラ山 13:30→北の耳 14:30 とそれぞれ峰（頂）があり、いろいろと変化に富んだ登り、下りありでのハイキングと特有の冷たい強風と寒さの中の初冬登山を楽しめました。今日はほとんどの登山道は霜柱を踏みしめての行動でした。

八島ヶ原湿原の湿原植物や高山植物（ニッコウキスゲが有名らしい？）見られませんでした。今度は高山植物が楽しめる時期と天気良ければ日帰りでもできる場所でもあるので何度来てもよい高原だと思いました。

とにかく一日中寒い中での行動でしたので、下山して早々に駐車場を出発して、途中白樺湖を通りさらに先の女神湖に面し宿泊場所につき早々に大浴場に直行、冷えた体を湯船につけ、さらにこの隣の露天風呂に行き体を付けながら、目の前で夕日に沈む女神湖に見ながらの温泉は何物にも代えがたい至福の思いは最高でした。

夕食、宴会と時間を気にせずに大いに盛り上がり、その上、今日日本で話題沸騰の映画「ボヘミアン・ラプソディ」のロックグループ伝説のバンド “クイーン” のDVD、歌、踊りとそれはそれとは楽しくゆったりと過行く時間を過ごしました。 こんな登山も年に一度は良いかもしれません！と思いつつ就寝。

#### ◇ 12月9日（日） 蓼科山 2431m登山

◇ 曇りのち晴れ、昨日と違い風は弱いが気温が低く寒いのは変わらず。

昨夜はネットで各人が天気予報を調べていろいろと思案の中、雪で強風もありの予報で、その場合は中止もありか？との思いであったが、6時に起きてみて風もほとんどなく薄曇りのようなので、まずは早々に露天風呂に入ったが風もなく昨日より心地よい。朝食をとり身支度整えて車に乗り蓼科山の登山口へいざ出発。



日本百名山の一つである蓼科山、標高 2531mは地元では諏訪富士ともいわれ遠くから見ると美しい円錐形の優美な山容で、八ヶ岳連峰の最北端にどっしりと座している名山であり、昨日ビーナスラインから遠くに見ていて登りたい思いに駆られる山である。

まずは登山ルートはいくつかある中で一番長い登り約3時間半、下り2時間半を見てのスズラン峠、女ノ神茶屋登山口の駐車場に車を止めて寒さ対策をしっかりと整えて、昨日同

様の霜柱の立ちそこらに笹が生い茂る道を登り始める。風はないが気温がかなり低く途中休むと寒いので冬山同様に休みもそこそこに行動食もぱさぱさの感じで何とか口に入れるような感じでまさに冬山である。



樹林帯を登り始めるとすぐ急登の連続で景色はあまりよくないが、中間でいったんなだらかな道になるが、またまた周りが樹林帯で急登の岩場を登っていると少し雪が舞い始め、樹木に付着している雪が樹氷の様子でしたから目を下から上に向けて樹林帯を見ると、太陽と樹氷のコントラストが素晴らしく、また合間あいまに樹木の開けたところから遠くに北、南アルプス、八ヶ岳前方が見え隠れして苦しさを和らげてくれる。

え隠れして苦しさを和らいでくれる。



いよいよ頂上近くになると、樹林帯もなくなり森林限界もこえる岩場を進むと、さらに胸を突く急坂になり、喘ぎながら登る。ことに頂上直下の大きな岩が積み重なる急斜面の岩場を慎重に登りきると山頂に到着。



山頂は岩だらけで木も一本もないがかなり広く平たんになっている所も一部あつた、雲が出てきたが切れた晴れ間から北、中央、南アルプス、中央、八ヶ岳、浅間連山、富士山などの 360 度の展望が開け登ってきた甲斐がありました。

遮るものがないもない頂上のせいか、強い風が出てきて寒さも増してきたので行動食を食べ、避難小屋？も閉鎖していたので下山を開始。今度は、さらに登りの時より下山なので下山の時こそ事故が多いと皆さんで申し合わせ、直下の大きな岩場の急斜面や連続した急登の岩場をより慎重に下る。



今日感じたことは、蓼科山は優雅な山容に対して、登り始めてすぐに長く急登が続き、ゴツゴツとした岩場が多くそのギャップの大きさに驚いた次第です。



帰りは、中央道に入る前に上諏訪温泉の国重要文化財指定の「片倉館」の日帰り天然温泉のロマン漂う洋風建築の「千人風呂」に入り、またまた寒さの中での登山で冷えた体を、天然温泉を豊富にたたえる大理石作りの100人が一度に入浴できる広さで、深さが1.1mもあり下は玉砂利を敷きしめその上に立ったまま大浴場に身をたたえ、周りにはステンドグラスや彫刻像があり、まるで古代ローマ帝国の大浴場か？とまちがうほどでこれまた大満足。これで入館料、風呂も含め休憩室、食堂もあり（時間が遅かったので食堂は終わっていました）で大人650円です。ちば山の皆さんもここを通る様な登山があれば一度はどうですか。

諏訪ICから中央道に入り途中の双葉SAで食事、精算などしていたら渋滞も解消していて千葉に帰り着きました。



森林限界手前の霧氷と青空